

主題：
聖書における命の極めて重要な啓示

メッセージ 1

創世記第1章において見られるような命

聖書：創 1:2-19

- I. 一見すると、創世記第1章と第2章は創造の記録にすぎませんが、実は、これらの二つの章において記録されているほとんどすべての項目はキリストの啓示です。彼は神の民にとって命であり、召会を生み出し建造します——ヨハネ1:1, 4. 11:25. 14:6. マタイ16:18:
- A. 厳密に言うと、創世記第1章は創造の記録ではなく、命の記録です。
 - B. 1節は神の当初の創造の記録であり、2節前半はアダム以前の宇宙に対する神の裁きに言及し、2節後半から第2章3節までは神の当初の創造ではなく、損傷を受けた宇宙の復興に加えて神のさらに進んだ創造に言及しています。
 - C. 神は良い秩序の中で地を創造しましたが（1:1. ヨブ 38:4-7. イザヤ 45:18）、サタンの反逆のゆえに、全宇宙は神によって裁かれ、その裁きを通して「地は荒廃し、また空虚になり、そして暗やみが深い淵の面にあった」。これは死の絵です——創 1:2 前半。
 - D. この死の背景について、2節後半は言います、「神の霊が水の面を覆い抱いていた」:
 - 1. 神の霊は、命の霊として来て、死の水の上で覆い抱き、命を、特に神の定められた御旨のために人を生み出しました——ローマ 8:2. 創 1:26. エペソ 3:11。
 - 2. 霊的な経験において、霊が来ることは命を生み出すための第一の条件です——ヨハネ 6:63。
 - 3. 創世記第1章2節後半での神の霊が覆い抱くことは、創世記第1章が単に神の創造の記録であるだけでなく、命の記録であることを示しています。
- II. 霊が覆い抱くことの後、神の言葉が来て、光をもたらしました——創1:3. 参照、詩119:105, 130:
- A. 霊的な経験において、言葉が来ることは命を生み出すための第二の条件であり、光が来ることは第三の条件です——ヨハネ 5:24. 6:63. 1:13. マタイ 4:13-16。
 - B. 霊、言葉、光は、神が彼の御旨を成就するために、命を生み出すのに用いた手段です:
 - 1. 霊、言葉、光はみな命のもので——ローマ 8:2. ピリピ 2:16. ヨハネ 8:12。
 - 2. キリストは霊として、神の実際です（ローマ 8:9-10. IIコリント 3:17. ヨハネ 16:13-15）。キリストは言葉として、神の語りかけです（1:1. ヘブル 1:2）。キリストは光として、神の輝きです（ヨハネ 8:12. 9:5）。
- III. 光と暗やみとを分離することは、昼と夜を区別するためです。これは命を生み出すための第四の条件です（創1:4-5. IIコリント6:14 後半）。水の間に大空を生み出すことによって水を分離することは、霊的に、十字架の働きを通して（コロサイ3:1-3. ヘブル4:12）、天の事柄を地の事柄から分けることを表徴します。これは命を生み出すための第五の条件です。

IV. 乾いた地が現れることは、命を生み出すための第六の条件です——創1:9-13:

- A. これは、第三日に起こり、復活の日と一致します——I コリント 15:4。
- B. 聖書で海は死を代表し、地は命を生み出す源としてのキリストを代表します:
1. 地が現れた後、あらゆる種類の命（植物の命、動物の命、さらには人の命）が地から生み出されました——創 1:11-12, 24-27. 2:7)。
 2. これは、神聖な命がそのすべての豊富を伴って、キリストから出て来ることを予表します。
 3. 第三日に、キリストは復活の中で死から出て来て、召会を構成するために命を生み出しました——ヨハネ 12:24. I ペテロ 1:3。
 4. 地と水とを分けることは、命と死とを分離することを表徴します——創 1:9-10。

IV. 感覚を持つさらに高等な命が必要であったので、さらに高等な光が必要でした——創1:14-19:

- A. さらに高等な光がなければ、さらに高等な命はあり得ません。ですから、第四日に光はさらに確実で、さらに確定的になったのです——14, 16 節。
- B. 全聖書の啓示によれば、光は命のためです。光と命は常に同行します——詩 36:9. マタイ 4:16. ヨハネ 1:4. 8:12. I ヨハネ 1:1-7:
1. 光が高等であればあるほど、命はますます高等になります。
 2. 第一日の不確定な光は、最も低い命を生み出すのに十分でした——創 1:3。
 3. 第四日の光体からのさらに確実でさらに確定的な光は（太陽、月、星）、人の命を含む、さらに高等な命を生み出すのに必要でした——16 節. 詩 136:7-9。
 4. このことが表徴しているのは、わたしたちの霊的な再誕生のためには、「第一日」の光で十分であっても、神聖な命において成長して円熟へと至るためには、さらに大きくさらに強い光が、すなわち「第四日」の光が必要であるということです。
- C. 太陽（「大きめの光体」）は、キリストを表徴します。勝利を得た聖徒たちも、主イエスによって太陽にたとえられました——ルカ 1:78-79. マラキ 4:2. マタイ 13:43. エペソ 5:14。
- D. 月（「小さめの光体」）は、召会、キリストの妻の型と考えることができます。星はキリストを表徴し（民 24:17. II ペテロ 1:19. 啓 22:16）、また勝利者たちを表徴します（ダニエル 12:3. 参照、啓 1:20）。